

生徒会新聞

熊本県訪問特別版

前期生徒会
生徒会長
生徒会副会長

発行日
平成29年1月6日

熊本県訪問

八月十六日・十七日に、浜松ベジタブル産学連携プロジェクトの一環として熊本を訪問した。実際に被災地を見たり、被災された方の話を聞いたりすること、テレビや新聞では分からなかった多くのことを学んだ。この新聞を読んで熊本県のことや地震のことについて考えるきっかけとなれば嬉しい。

熊本城

石垣の多くが崩れてしまっていて、城自体は立ち入り禁止になっていた。熊本城は非常にきれいに石が積まれていたので、元通りになるには約二十年かかるそうだ。さらに、石を積む職人が減少・高齢化していて、より時間がかかる可能性もある。

植木青果市場

競りといえば朝が一般的だが、植木青果市場では珍しい夕方の競りが行われている。夕方に競り落とした野菜・果物・花が、熊本から全国に運ばれる。私たちが訪問した日は普段より量が少ないということだったが、それでも学芸高校の体育館ほどの大



大津町役場での目録贈呈
大津町副町長と井口会長

益城町

熊本地震の震源地、益城町を訪問した。益城町は、震度七を観測し、甚大な被害が出た。地震発生から四か月が経過していたが、まだ避難所生活をしている方が多くいた。仮設住宅の建設は進んでいるものの、数が足りていない状況であるようだ。倒壊せずに残った家もあったが、大半が立ち入り禁止となっていて、家に帰ることはできない。また、それ以外の家も屋根がビニールシートで覆われていて、地震の被害を目で見て実感した。

大津町役場

益城町に近い大津町も甚大な被害を受けた。元の役場は、地



大津町仮役場



崩れてビニールシートで覆われた家

熊本県の家は、台風対策のために屋根の瓦が重くなっている。地震の際には、その重い屋根がマイナスとなった。屋根が重いせいで崩れ落ち、被害がより大きくなったと考えられている。被災者の方々に、少しでも早く普通の生活が戻ることを願っている。

大津高校

震源地の近くにある大津高校を訪問した。大津高校には四つの学科があり、今回の訪問では美術コースの二・三年生四名に話を聞くことができた。

大きな揺れを複数回感じて、とても怖い思いをしたこと、家族と離れ離れにならなかったことが何よりも良かったこと、SNSを利用して湧き水などの情報を共有したこと、山が崩れてしまったところがあるため、今は二時間をかけて登校していることなどだ。時折涙ぐみながら話をする姿はとても印象的であった。今回をきっかけに大津高校との繋がりができることを期待する。



大津高校の生徒と
学芸高校執行部
浜松ベジタブル池田さん

熊本県庁

熊本に着いて最初に訪問したのが熊本県庁であった。県庁企業立地課の方々が出迎えてくださった。地震の傷跡は県庁にも大きなひび割れとして残っていたが、県庁の方々はとても明るく、前向きであった。

熊本県には地震が起きないと思っていたために対応が遅くなってしまったことや、まだ手つかずの地域があることなどの地震の話を聞くことができた。

一般の方の見学も受け付けている。競りの様子を間近で見、迫力を感じてもらいたい。



植木青果市場での競りの様子

訪問を終えて

今回の訪問で一番強く感じたのは、熊本県の人々の強さである。前向きに復興に向けて進んでいる姿に勇気をもらった。

ところで、私たちが熊本県のためにできることはあるのだろうか。私は考え続ける事だと思う。地震発生から約九か月経ち、テレビや新聞で熊本県のことを見ることが少なくなった。しかし、私たちは熊本地震の事を忘れず、熊本地震の反省を活かしてできることをすべきだ。

家に水や非常食は準備してあるだろうか。避難訓練に真剣に臨んでいるだろうか。東海地震がいつ来てもおかしくないと言われている、この静岡県中学校に通う者として、準備を万端にしておきたいものである。

熊本県に実際に行くことで気付かされるが多くあった。このような貴重な体験をすることができ、浜松ベジタブルさんには感謝の気持ちでいっぱい。